

Free-market

あなたもリサイクルのプロ
になりましょう。



リサイクル運動の会
会員 本田陽子さん

私たちは、ごみの問題を女性の視点から出来ることをやってみようという事で、この会をつくりました。

地球の環境問題は、身近な問題であり、取り組み方はたくさんメニユーがあります。フリーマーケットやリサイクル市場、各市のアリケート調査の結果で耳にするのは、「これ以上の環境破壊は許されぬ」という積極的な言葉です。ごみの減量化や環境を守るための運動はたくさんあると思いますが、その中でも主婦や子供たちに人気があるのは、フリーマーケットやリサイクル市場です。このフリー

マーケットやリサイクル市場はアメリカ西海岸が発祥の地で、彼らの陽気さが生み出した市民ぐるみの行事です。自分たちが使わなくなった品物を、必要な方へ転売していくシステムで、浪費は美德と言われ、捨てる事がカッコイイ時代にサヨナラした訳です。捨てるより売るのが合理的とする偉大な発想は、都市生活者の知恵とライフスタイルとして市民権を得ています。

私たちが取り組んでいるリサイクル運動の会では「ピクニック気分でのリサイクル」をキャッチフレーズにしています。利用者全員が楽しめるフリーマーケットを二カ月に一度開催していますが、この期間が待ちきれずに「早く開催して」と要求してくる方も増えていきます。また、昨年から始めたリサイクルボランティアも、多くの方に協力していただいております。本当のごみの減量化はごみをつくらぬことだと思います。これからは喜んでリサイクルに取り組みめるよう、みんなと一緒に頑張っていきます。

みなさんもリサイクルのプロになりましょう。



留萌消費者協会
会長 細田愛子さん

Silver-power

お年寄りはリサイクル上手。
お年寄りの力、知恵を学ぼう

私たちは、地球の環境を守るためにいろんな活動をしています。今年の10月から留萌市内でもごみの分別収集が一緒にスタートするそうです。大変良いことだと思えますが、大事なことはそのシステムをひとり一人が守ることです。市民の協力を図っていると聞いています。その学習の場には、お母さんだけでなく、お父さんやごどもたちも参加すべきだと思います。そして、ポイ捨てはしないでほしい。それを拾う子供やお年寄りたちにもなってください。みんなボ

ランティアで街をきれいにしようとして頑張っているのです。ごみを集めてくれる人たちにも、もっと感謝すべきです。それと、コピー時代になってしま、必要以上に紙が使われています。書類関係はみんなに配布するのではなく、最小限に抑え、一冊の綴りをみんなで見ると抑えるべきだと思います。私たちの会ではいろんなものを再製品化しています。たとえば牛乳パックを使ったりはがきや小物入れ、傘のキジを利用した買物袋。ジーパンで作ったリユックサック。ワイシャツで作ったエプロン。廃油からはプリン石鹸を作ったりしています。

今年も生活展を開催します。多くの皆さんに見ていただき、家庭でもできる再製品化には是非挑戦してください。そして、皆さんの手で地球環境を守りましょう。



市役所職員
大坪 博さん

RECYCLE

ごみの70%はごみではなく
資源になります。

に向けて、毎日のように住民説明会を実施しています。ありがたいことに多くの市民が参加してくれています。特に若い主婦層やお父さんたちの参加もあります。関心度が高いので私もはりきって取り組んでいます。

ごみの分別で街の様子が変わっています。たとえば、開運町や栄町ではガラスが減りました。また、見晴町の日東団地では、モデル地区を開始したと同時にガラスが消え、大変良かったとわざわざ電話連絡をしてくれました。分別を始めたころは「めんどうだ」と言う声が多かったのですが、一カ月もすると慣れてしま、動物による被害も無くなり町内もきれいになったと喜ばれました。そして、ごみの分別収集で井戸端会議がはじまり、住民同士の交流も深まっていったそうです。確実に留萌の町はきれいになっています。

皆さんと一緒にごみの無いまちづくりを築きましょう。

Clean-up-rumoi

クリーンアップ ルモイ
とりわけ主婦の力に
期待します。



留萌支庁環境生活課長
佐藤 寿男さん

人間が知識を身につけていくのに、まわりの物の中からひとつつある物を区別してそれを覚えていくやり方があるという。赤ちゃんはまず大切な母親を他から区別することから知的成長を始める。ここでいう区別とは分別と同じ言葉である。従って、分別を持った大人は当然ごみを分けて出すことを面倒くさがってはいけません。しかし、本道の分別収集はすすんでいない。分別収集を行っている市町村の割合は、全国平均の65%に比べ、43%とたいへんに低い。支庁管内の本格的なところは留萌市が始めてである。ごみの

再資源化のためにも、また、現在問題になっているごみ焼却場からの猛毒ダイオキシンを防ぐためにも、ことは急がねばならない。分別収集を行うことは、ごみを捨てる人に面倒な手間を要求することになる。さらに、ごみ処理施設を設ける地域の人々には特別の我慢をお願いしなければならぬ。リサイクルプラザの実現にいたるまでには、市役所の方と住民の間で長い間にわたる根強い合意づくりがあったと思う。

行政にとって道路や港、会館などにはお金を使いやすい。しかし、目にふれない、ふれたくないごみ処理にはできるだけお金を使いたくないのが本音であろう。トイレを覗けばその家の清潔さ、人柄が分かるという。そこにお金を使う留萌市はすばらしいし、一市民としても誇りに思う。

私が前に住んでいた町では、分別収集が行われていた。いいかげんなごみの捨て方をしている「それじゃ再生できないっしょ。」としばしば女房に叱られた。子を生み出す力を持つカミさんは、また、資源の再生の神でもあるようだ。

今まで出されているごみの70%はごみではありません。資源の材料を出してもらっているのです。たとえば、生ごみはコンポストを利用すると庭や畑の栄養分となります。また、生ごみの袋で出すと市民農園や公園などの土壌に使う堆肥をリサイクルプラザで作ることが出来ます。

プラスチックや木、紙などの燃えるごみは固形燃料になります。他にもまだまだ再利用、再資源化ができるものがいっぱいあります。みなさんの家庭内から分別を始めてください。

現在10月から始まる分別収集